

令和8年度
「音楽科特別講座」
名古屋会場 ～明日の授業を創る～
講座レポート

令和8年8月20日(木) 名古屋音楽大学
主催: 音楽教育推進協議会
協賛: 株式会社ヤマハミュージックジャパン

選択講座①

「私の授業PLUS(プラス)」

楽しくて力のつく、小学校音楽科の授業づくりのポイント

講師:宮崎 新悟 元富山県公立小学校長、富山県授業力向上アドバイザー、音楽教育推進協議会東海北陸支部長

伴奏者:立岩 聖菜 名古屋音楽大学3年



冒頭、講師の呼び掛けに皆で歌った『♪翼をください』は、自然にたおやかな二部合唱となり、会場に響き渡りました。まさに、音楽科の研修の始まりを感じさせるものでした。

低学年での指導、歌唱・器楽・鑑賞での指導を視点に、大切にしたいポイントを実際に歌い、演奏することで学びました。そんな中で、発達段階における効果的な活動の在り方や言葉掛けの重要性を考えることができました。音楽の要素である和音の学習、ブレスへの理解、音色やフレーズを意識した表現方法への指導についても、具体的な観点から導いてくださいました。もっとお聞きしたいとの声も会場から聞こえてきました。

豊富な経験から伝えられる内容は、どれも明日からの指導に生かしたいものばかりでした。参加者誰もが、両手一杯の学びのおみやげを持ち帰ることができた講座でした。

音楽教育推進協議会 常任理事

選択講座②

「私の授業PLUS(プラス)」

楽しくて力のつく、中学校音楽科の授業づくりのポイント

講師:平田 誠 元岐阜県公立小中学校校長、前中部学院大学特任教授、音楽教育推進協議会東海北陸副支部長

伴奏者:田中 心蘭 名古屋音楽大学3年



平田先生は、長年に渡って華々しい経歴をお持ちの合唱指導者です。「子ども自ら、豊かな表現を追求できるようになるには?」、「週一時間の授業で、美しい合唱を創る生徒をいかに育成するか」が、本講座の趣旨でした。

まず、歌唱の根幹は「息を吐き切る」ことであり、話し声と歌の声の違いを子どもに認識させる大切さを語られました。参加者自身も具体的な指導ポイントを体感し、今後の指導に生かせると願っていました。次に、子どもは強弱や遅速などのわかりやすさで音楽と詩の語りかけを判断するため、楽譜を基に子どもの願いと音楽表現をつなげていく大切さを説かれました。また、参加者の日ごろの悩みを引き出し、先生の温かく適切な助言から会場の一体感も高まりました。低い声で歌う男子には息を十分に吐かせる指導を、パートの音取りに終始せず、全体で他のパートを聞きながらの合唱練習が有効であること、パートの音取りにはピアノ力がベストであること等々。明日の授業から生かせる合唱指導のヒントが満載の時間を参加者全員で共有した講座でした。

音楽教育推進協議会 常任理事

全体講座

楽しく音楽学習を進めるあの手この手

講師: 古宮 真美子 音楽教育アドバイザー、作曲家



音楽教育アドバイザーの古宮真美子先生をお迎えし、全体講座を開催しました。会場には120名の参加者が集まり、テンポよく進む180分の“模擬授業”はあっという間でした。

古宮先生が何度も強調されたのは「子どもに実感させる」ことの大切さです。例えば、鍵盤の上で手を移動させて「高い音、低い音」を体感する“お引越し”遊びや、タンギングで「歯の裏に舌がタッチする」のを実感させる言葉かけなど、すぐに使える仕掛けが満載でした。

参加者は自ら子どもになって参加する中で、「できた！なるほど！」と心が動く瞬間や、ほめ合い響き合う楽しさを実感することができました。

「2学期からの授業でさっそく試したい」「子どもたちが繰り返し楽しむ姿が目につく」と、参加者全員が目を輝かせ、大きな意欲と笑顔に満ちた素晴らしい研修となりました。

音楽教育推進協議会 常任理事